

はじめに

現代は先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代であり、その特徴である、変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑性 (Complexity)、曖昧性 (Ambiguity) の意味を表す4つの英単語の頭文字を取って「VUCA」の時代と呼ばれています。このような時代にあつて、学校教育には、こどもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。そのような中で、こどもたちの成長を担う教員に求められるのは、いかに時代が変化しようとも、その時代の背景や要請を踏まえつつ、自らがこどもたちの道しるべとなるべく、常に学び続け、その資質の向上を図り続けることです。

このような背景を踏まえ、当センターでは、未来を拓くこどもを育むために、教職員の研修及び教育に関する専門的・技術的事項の調査研究を行い、教育の振興を図ることを基本方針とし、「学び続ける教職員を支え和歌山の教育を元気にする」ための事業を進めています。

本誌は、当センターが実施する各事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、これまでに取り組んだ3つの研究等を掲載しています。

「和歌山県における教員育成指標の作成、活用の経過及び新たな教師の学びの姿の実現に向けた展望－養護教諭、栄養教諭の専門性に係る指標作成とこれまでの取組の総括について－」では、和歌山県におけるこれまでの教員育成指標に係る検討、作成等の経緯を概観するとともに、新たに取り組んだ養護教諭及び栄養教諭の指標作成について報告しています。加えて、一般企業での人材育成に係る研究を踏まえ、学校現場における管理職等と教員との対話に基づく受講奨励に対する期待を述べています。

「探究を通してミドルリーダーを育成する教員研修についての一考察」では、教師の学びの姿も、こどもたちの学びの相似形であるという考えに基づき、本県が実施するミドルリーダー育成研修に係るデザインと評価方法について、総合的な探究の時間に係る探究、田中(2021)の探究的な学習の定義及び安彦(2022)の教育における評価の方法としての自己評価に着目し、考察しています。

「中学校及び高等学校外国語科において生徒の学習意欲を高める教師の手立ての提案」では、教師の積極的な英語使用に焦点を当て、教師の英語使用の重要性や中学校及び高等学校外国語科において生徒の学習意欲を高める教師の手立てを提案しています。

以上、これらはいずれも本県の教育現場における今日的教育課題に対応するための研究及び実践の一部です。本誌の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん、本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、御高覧の上、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和6年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長 森田 浩二